

令和 6 年度 第 3 回二宮町政策評価委員会 議事要旨

開催日時		令和 7 年 1 月 28 日（火） 10:00～12:00
開催場所		二宮町役場 第 1 委員会室
出席者	委 員	出席 7 名 大田 博樹 委員、埴山 訓 委員、荒木 雅幸 委員、 渋谷 佳代子 委員、井通 隆正 委員、上村 舞子 委員 川平 和代 欠席 0 名
	町	政策部長
	事務局	政策部企画政策課 3 名
傍聴者数		0 名
会議次第		1. 開 会 2. 委員長あいさつ 3. 議事 （1）二宮町総合戦略評価について （2）二宮町総合戦略評価の意見集約結果について （3）その他 4. 閉 会
配布資料		資料 1 総合戦略施策評価シート（令和 5 年度実績） 資料 2 施策に関連する事業の説明 資料 3 総合戦略施策評価シート（令和 5 年度実績）意見 集約結果 参考資料 1 総合戦略の施策に関連する予算等事業の基礎評価 シート 参考資料 2 行政評価施策評価シート（令和 5 年度実績）修正 反映版

【議事要旨】

※ ◎：会長、○：委員、●：事務局

（１）二宮町総合戦略評価について

（主な意見交換等）

施策３-１「妊娠から子育てまでの切れ目のない支援」

- 子育てをするにあたって、近所に住んでいる同世代のこどもとの触れ合いが少ないと感じており、こどもの健診などで初めて同世代のこどもがこれだけいたのだと気付くことがあった。気軽に相談できる人や場として、町主催で地区集会施設などを利用して、地区別に同世代のこどもを育てている母親などと意見交換ができる場を設けてもらいたい。
 - 例えば、単なる一時預かりではなく、出張子育てサロンのようなものがあるとよいのではないか。老人憩いの家などの地域集会施設も、集会やイベント時に特定の人を使うだけでなく、有効活用できる余地はあると思う。
 - 住んでいる近くでそのような場があれば、子育て世帯同士で知り合いが増えるので、よい取り組みになるのではないか。ただ、個人でそれを呼びかけるのは難しいので、町が支援してくれる形になるとよい。
 - そのような取り組みができれば、KPIにある相談できる人や場の実績も増えることに繋がる。
 - 今あった要望を働きかけて実現するのは、町ではなく社会福祉協議会などになるのか。また、町組織内でこのようなことを検討する部署はあるのか。
 - 町に担当部署があるので、この場でいただいた意見などを担当課と共有し、実施の可否も含めて検討します。また、本委員会の意見をまとめた意見書なども、町の幹部職で組織する本部会議に諮ることで組織全体に周知します。
 - 実際にできることになった場合に運営するのはどこになるのか。
 - 直営か委託かという検討はありますが、町が運営することになります。例えば、現在の子育てサロンは、社会福祉法人寿考会に町が委託して運営しています。
 - 教育相談に関して、スクールカウンセラーが学校に常駐しているので、相談したい時に別の場所に赴くことなく、学校の先生に同席してもらいながら面談できるため非常に安心感がある。
 - ◎ 外部評価として、議論のあった点について、委員会の意見として記載すること。
 - ◎ 以上により、事業の進捗状況を総合的に判断した結果として、委員会としての評価は「施策実現に向け対象や規模等の拡充が必要」としてよいか。
- （異議なし）
- ◎ 本施策に対する評価は「施策実現に向け対象や規模等の拡充が必要」とする。

施策３-２「仕事と子育ての両立支援」

- ファミリーサポートセンターとはどのような制度なのか。
- 保育園等への送迎や冠婚葬祭など、様々な理由により一時的にこどもを預けたい

「おねがい会員」と、それに応じる「まかせて会員」がそれぞれ「ファミリーサポートセンター」に登録して、社会福祉協議会がマッチングする制度です。まかせて会員として登録した人は、マッチングしたおねがい会員が希望する時間帯にご自宅でこどもを預かることになります。

- ファミリーサポートセンターは、常時、預けたいときに預かってもらえるのか。
- 受け入れに関しては、事前に相談いただければ面談を通じて会員同士を繋ぎます。また、子育てサロンでも一時預かりを実施していますので、こちらも利用できます。
- ◎ KPIにおいて、まかせて会員は年々増加する計画値を設定しているが、この根拠はあるのか。また、会員数に対する稼働率はどの程度なのか。
- 担当課で令和9年度の目標値を設定し、均等に増加するようにしています。なお、稼働率については把握していないため、担当課に確認させていただきます。
- 社会福祉協議会で面談をしたうえでお互いの条件に合った人をマッチングしており、同じ人に預け続けられることから、預ける側にとっての安心感があるように思う。ただし、自身が面接したときも、まかせて会員は高齢化により減ってきているという話を聞いている。関連するKPIについては、まかせて会員がいてもおねがい会員と相互のニーズが折り合わなければマッチングしないこともあるので、KPIは会員数でなく稼働率を位置付けた方がよい。

また、一時預かり事業について、百合が丘保育園の一時預かりは1回の面談で済むが、他は数回面談が必要なことから、保護者の負担軽減のために手続きの統一やデジタル化による自宅からの手続きの導入などを検討してほしい。
- 保育園は町の直営で、栄通りと中里は寿考会に委託していることから違いが生じているものと思いますが、状況は担当に確認します。
- 一時預かりは、使いづらいという声を聞いたことがあるが、就学前の子どもを育てている世帯へのアンケート等のニーズ調査はしているのか。もし、していないのであれば、現役の子育て世帯の声を聞くための取り組みをしてほしい。
- 社会の状況も変わっていくので、子育て世帯などに対して定期的にアンケートなどを行い、少しでも要望に沿った改善に繋ぐことのできる仕組みづくりが必要である。
- 町内で自主事業をしている法人でも、高齢化により参加できるスタッフが少なくなっていると聞いており、ファミリーサポート事業についても、将来同じような状況になることが予想されることから、町として役割を担ってもらえる人材の育成や積極的な働きかけができるとうい。
- 毎年広報紙で会員の募集をしているが、子育ての落ち着いた50～60代も昔に比べて働かれている人が多いので、この制度自体の持続可能性も含め、仕組みを抜本的に考える必要があると感じています。
- 関連する事業である「子育てサロン及び一時預かり運営事業」の課題で、町内2子育てサロンと3一時預かりの在り方を検討するとあるが、未就園児の減少を考慮して縮小していく方向で考えているということか。

- 現時点で、すぐに減らすということはありませんが、複数の箇所では受け入れができることに利点がある一方、施設の人員が確保できないという課題もあるため、今後、利用者である未就園児が減少していく中で、こういった在り方がよいのか検討する意図です。
- KPI の待機児童数の実績について、資料の中では年度途中で待機が 4 人発生したとあるが、実績は 0 人でよいのか。
- 基準は 4 月 1 日時点のため 0 人としています。また、令和 5 年度の年度途中は一時的に待機が発生しましたが、令和 6 年度の開始時点では、0 人になっています。
- ◎ 瞬間で人数を測定するのではなく、12 か月間の実績を平均するなどしなければ事実を反映していると言えないのではないか。
- 待機児童として算定するのは、入園する保育園がない場合です。保育園を指定している人は含めないため、指標としては少し難しいように思えます。
- ◎ 本人の意向を尊重するのであれば、含めるべきだと思うが、確かにここで結論を出すのは難しい内容である。
- 移住相談の際にも待機児童の状況はよく聞かれるが、待機児童はいないと言っておきながら、実は年度途中は発生していて今は入ることができないとなると、移住者にとって魅力的ではなくなってしまうように感じる。
- 定員については、保育士の数が足りていないことも理由ではありますが、保育園は利用定員に応じて給付金の補助額が決まっています。そのため、保育所に空きが生じてしまう状況は、経営上問題が生じる場合があり、そのような点でもニーズとのバランスを取ることが難しいです。現状、児童数が減少する中でも、予想に反して保育のニーズが増加していることから、今後数年はこの状況が続くと予想しています。
- 保育士の人数だけでなく、定員ギリギリではなく、受け入れにある程度の余裕数を持たせることが町のリスク管理として正しいのではないか。
- 町から民間の保育所に対して定員に余裕を持たせるように要望することは難しいと思います。ただ、決して無理に定員を抑制しているのではなく、保育士が足りていないのも事実なので、町としても定員数にある程度余裕を持ってもらいたいという気持ちもありながら、現時点では難しく、その点でも改善が必要であると感じている状況です。
- 今の KPI では保育所の実態は分からないので、先ほど意見にあったように月平均や、定員に占める余裕率などにするのがよいのではないか。
- 町では保育士に対する就労支援交付金を導入しているが、これによって保育士が増えたという実績はあるのか。
- 令和 5 年度は、4 名採用したということを担当課より聞いています。
- ◎ 外部評価としては、子育て世帯のニーズを把握するためのアンケート等を実施することや、KPI をファミサポの稼働率など事業の進捗状況を適切に判断できる内容に見直すこと、一時預かり事業などにおいて手続きの簡素化を検討すること、まか

せて会員の高齢化という課題に対して積極的にアプローチをする旨を意見として追加すること。

- ◎ 以上により、事業の進捗状況を総合的に判断した結果として、委員会としての評価は「施策実現に向け対象や規模等の拡充が必要」としてよいか。

(異議なし)

- ◎ 本施策に対する評価は「施策実現に向け対象や規模等の拡充が必要」とする。

施策 4-1 「地域商工業の活性化」

- 二宮ブランドの認知度の実績はどの様に集計しているのか。
- 毎年度実施している町民 1000 名に対する無作為アンケートの結果により集計しており、今回、回答のあった 390 名に占める割合となっています。
- ◎ 最終目標の 100%は実現が不可能ではないかと思う。90%を超えれば認知度として十分ではないか。
- 二宮ブランドの認知度向上に向けて、どのような広報活動を行っているのか。
- 広報紙や町ホームページでの情報発信に加え、ふるさとまつりや菜の花ウォッチングなどのイベント、また、町内のスーパーや渋谷キューズでの販売会を実施しています。
- 二宮ブランドについては、町民が置いて行かれているようなイメージがあり、知ってはいるけど食べたことはないという人も多いのではないか。もし、町民と一緒に盛り上げたいなら試食会などのイベントがあるとよいと思う。
- 現在の二宮ブランドは、町民が知らないうちに認定されているイメージがあり、その在り方に違和感がある。ブランドは、自然に立ち上がっていくものであって、ゼロから無理やり創り出すものではないと思う。例えば、移住者は二宮町なら何かができるのではないかという期待を持ってくる方も多いので、町や商工会でも支援体制を整備し、チャレンジがしやすい風土を醸成することで、それ自体をブランドにするのもよいのではないか。
- ◎ 企業相談会や融資制度といった土台があるので、今後、町民たちでも雰囲気をつくっていくことが重要になる。
- 二宮ブランドは、町の名産品となるものをまずは町民に知っていただき、ゆくゆくは町外に広げていくことを目指しており、現在は、年に 1 回二宮ブランドの募集をして、審査会を通じて認定されれば、町と商工会が協力して PR をしていくことになる。しかし、KPI の結果にもあるとおり、現時点で認知度は低いため、どのようにして知ってもらうかは今後の課題であると思う。
- 中小企業融資件数の実績が計画値に比べて高いのは、町で創業したい人が増えたことで、企業相談件数と比例して増加しているということなのか。
- 担当課に確認のうえ次回報告させていただきます。
- 事業者の高齢化が進んでおり、事業継承に関する検討が必要になるものの、情報発信にとどまっていることを課題として挙げているが、これは店舗の情報発信とい

うことか。

- 町に相談があった際に、情報を提供するということになると思うが、担当課に確認のうえ改めて報告します。
- ここ数年で、昔から続いていたお店が何店か閉店しているのを見て、非常にもったいないと感じている。相談できずに終わるよりは町から働きかけて、うまくマッチングすることで継承に繋げることができればよいと思う。
- ◎ 外部評価としては、ブランドの認知度を高めるために試食会などの工夫した取り組みを実施すること、また、ブランドの醸成のため、広報の方法などを再検討する必要がある旨を意見として追加すること。
- ◎ 以上により、事業の進捗状況を総合的に判断した結果として、委員会としての評価は「施策実現に向け対象や規模等の拡充が必要」としてよいか。
(異議なし)
- ◎ 本施策に対する評価は「施策実現に向け対象や規模等の拡充が必要」とする。

施策 4-2 「地域農林業の活性化」

- ◎ 特産物普及奨励事業の実績において、生産量が増加傾向にあることを挙げているが、オリーブの生産量が増加しているということか。
- 本施策における KPI の実績にもあるとおり、町内のオリーブ生産量は計画値に対し大きく上回っている状況となっています。ただし、現実では需要に耐えうるだけの水準には達してはいないため、更なる生産量の増加を目指す必要があります。
- ◎ 町としては個人の農家も増やしたいという考えがあるのか。
- 遊休荒廃地の問題もありますので、個人も含めてそのような土地を活用できる方にオリーブの栽培が広がってもらえるとよいと考えています。
- 資格の問題もあって、遊休荒廃地の関係は非常に難しい課題だと感じる。移住してくる人の多くが畑をやりたいと感じている一方で、何のつてもなく農家でもない人は実現が難しく、やる気のある人材がいても、自身の仕事もあるため農家になってまでやりたい人はいない。そのような人でも遊休荒廃地を活用できる方策はないのか。
- ◎ 農業法人が一般の方に土地を貸すことはできないのか。また、農家として判断される基準はあるのか。
- 新規就農者を認定する基準があります。農家から正式に農地を借りるためには、農業者の資格がなければいけません。
現状は、援農制度により、農家を手伝うという立場で農業に携わっている場合が多いです。
- ◎ 新たに農家となる人が少ないのであれば、別の方向性に展開していくことを検討することが必要になるのではないかと。それができれば、移住者を増やすことにも繋がるように思う。
- ふれあい農園も町が借りて、利用者を募集している形式なのだから、遊休荒廃地

も小さい区画は同様の取り扱いができないのか。

- 場所が山奥だったり、使いづらい場所であるため、町が管理するものとしては非常に難しいことが現状です。
- 最近町内を歩いていても、農地が放置され荒れてしまっていることで、景観が非常に悪くなっていると感じている。見晴らしのよい場所などがきちんと整備されれば、ひとつの名所として PR にもなると思うので、何かしら方策がないか工夫して考えて欲しい。
- ◎ 外部評価としては、移住者など町民が気軽に農業に携われるような仕組みを検討する旨を意見として追加すること。
- ◎ 以上により、事業の進捗状況を総合的に判断した結果として、委員会としての評価は「施策実現に向け対象や規模等の拡充が必要」としてよいか。
(異議なし)
- ◎ 本施策に対する評価は「施策実現に向け対象や規模等の拡充が必要」とする。

(2) 二宮町総合戦略評価の意見集約結果について

(主な意見交換等)

施策 1-1 「公共施設のマネジメントと新たな魅力の創出」

意見なし

施策 1-2 「地域で支えあう体制の構築」

- 4点目の意見の趣旨は、今のままでは KPI に設定している地域活動に参加している人の割合が、今後伸びにくいのではないかとということが根底にあり、現在、町内会への加入割合は 80%程度で、残りの 20%には広報など町の情報が全く届かない状況になってしまっているが、町内会に加入していない人も町民である以上、必要な情報を届くようにしなければいけない。広報等の配布は町内会が担っていることを理由に、加入していない人には自分で取りに行くこととしている状態で、地域活動に参加する人が集まるのかという懸念があったために発言したものであるので、その趣旨が伝わるようにしてほしい。
- 4点目の意見は、今のままでは読みづらいため、会費の徴収方法に関する内容と、町内会に参加しやすい環境づくりに関する内容を分けた方が伝わりやすいものになると思う。
- ◎ それでは、文章を分割したうえで、先の意見にあった内容を反映し、「会費の支払いに関係なく最低限の情報を提供するなど」という文言を町内会の参加に関する意見に追加すること。

施策 1-3 「豊かな環境の保全と気候変動対策の充実」

意見なし

施策１－４「デジタル技術による行政サービスの向上」
意見なし

施策２－１「二宮らしい魅力の創出と発信」
意見なし

施策２－２「特色ある教育活動の推進」
意見なし

（３）その他

- 次回会議は２月を予定しておりますが、詳細な日程については改めて調整させていただきます。

【以 上】